

学校教育目標	「確かな学力と豊かな心を持ち、たくましく生きる児童の育成」
--------	-------------------------------

a ミッション	「コミュニティ・スクールを基盤として取り組む「心を育てる教育」の実現	a ビジョン	「学校と地域が協働し、子供の未来を拓く学校」	尾道市立向東小学校
---------	------------------------------------	--------	------------------------	-----------

評価計画					自己評価					学校関係者評価			改善計画	
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
					g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ		
学力の向上	主体的に学び続ける児童の育成	対話的な授業づくりによる学力の向上	(1) 授業改善 ①思考力、活用力の育成を目指した対話的な授業づくり ②課題や実態に応じた手立ての工夫 ③ICT機器の活用 ④研究授業の実施	○対話に関する児童アンケート『道徳科の授業では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしている。』という項目で肯定的な評価の児童と教職員の割合の平均	90%	98.3%	88.5%	98.3%	B	【結果】 ・ペアやグループで対話をしたり、より多くの考えを知る機会を作ったりするなど、対話の仕方を工夫することで、児童は自分の考えを深めたり広げたりすることができた。 ・7月は児童の自己評価のみだったが、1月は児童と教職員の評価の割合となっているため、より客観的な評価となっている。 【課題】 ・声が小さくなったり早口になってしまう児童もいる。	9	1	・対話的な授業は、とても可能性を感じる。授業以外の場でも自分の思いを伝えられたり、その思いを押しつけるのではなく相手の思いも聞き受け入れられる柔軟性も育まれていくのではないだろうか。 ・教職員は達成度が低いと考えている事が多い。課題が1項しか挙げられていないのでもう少し課題抽出もされた方がよいのではないかと。 ・授業参観や研究会参観を通して、対話的な授業づくりが確実に定着してきている。 ・子ども同士でもうまげ(表現)ができない子もいると思うので、先生のサポートで更に対話的な授業づくりを進めたい。 ・学校全体でたてわりや学年でのグループづくりをする中で他の児童の考えを知ったり、安心して自分の考えを発表する機会を多く持つ成果だと思える。 ・話しやすい(受け止め合う)環境・内容・話し方・3つの方向からのバランスのよいアプローチができたこと。 ・自己表現をする手法について段階的な目標を持たせて指導し、達成感を味わわせることにより、単口の改善につながった。 ・評価方法を迅速に改善するなど積極的に取り組まれた。	・友達の意見に質問をしたり、付け加えたりすることで、対話の質を高めることができるようにする。 ・さらにレベルを上げていくため、小集団や全体の場を話すときに、相手意識を持たせ、声の大きさや速さなどに気をつけるよう指導をしていく。
			(2) 言葉の力の育成 ①書く力の育成 ・向東小テストを活用した記述問題の指導 ・日記、意見文の指導 ②読む力の育成 ・意味調べ、音読の充実 ・読書活動の推進	○対話に関する児童アンケート『道徳科の授業では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしている。』という項目で肯定的な評価の児童と教職員の割合の平均	100%	102.8%	103.7%	105.6%	A	【結果】 ・国語科、算数科ともに目標値を超えることができた。 ・道徳科で取り組んできた対話によって、話す力や説明する力がついてきている。 ・授業改善の結果、言葉の力、書く力がついてきている。 ・算数科では、単元によって平均点に差がある。	10		・読書活動の推進について具体的な取り組み内容を知りたい。 ・全国平均を上回るクラスもあるなど一定の成果があったのだと評価できる。 ・教職員が丸となり、ベクトルを含ませた授業づくりが成果につながった。地域の学習ボランティアの積極的な協力を学力向上に寄与していると思いたい。 ・達成度アップに日々の取組の成果が出ていますね。 ・ことばの力の育成が全体的な学力の向上で中学～大人になってからにもつながる実質的な力を育てて素晴らしいと思えます。 ・道徳科の授業を見ながら、児童は対話をする意味を知ってきていると感じた。 ・各学年の発達状況について、時系列で変化を見取ることでもできればよい。	・国語科では、読む力をつけるために、初めて読む文章を扱った練習問題に取り組みさせる。 ・算数科では、単元によって平均点に差があるため、苦手な単元(図形、量と測定)を中心に授業改善をしていく必要がある。
			単元末テストにおける平均正答率(%) 1年 国85 算85 2年 国85 算85 3年 国80 算80 4年 国80 算80 5年 国80 算80 6年 国80 算80	○対話に関する児童アンケート『道徳科の授業では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしている。』という項目で肯定的な評価の児童と教職員の割合の平均	全国平均以上	国語科 102.8%	算数科 97.9%	国語科 101.4%	算数科 102.9%					
生徒指導の充実	心身ともに成長しようとする児童の育成	心を育てる 体力づくり	(1) 自己肯定感を感じる学校集団づくり ①仲間づくりを意識した構成的グループエンカウンター ②児童の不安や悩みを早期発見する体制の充実 ・いじめアンケート実施後、全児童面談 ③仲間との関わりを生み出す機会の確保 ・縦割り班活動の計画的な実施による異学年交流 ・ウィズコロナを見据えた、活動機会の創出	・児童アンケート「友達と関わって学習したり活動したりするのは楽しい」の項目で肯定的に答えた児童の割合	低: 99% 中: 90% 高: 95%	低: 97.6% 中: 94.3% 高: 96.1% 全体 96.0%	99% 105% 101%	A	【結果】 ・児童会役員や6年生が中心となり様々な種類の交流の機会を設けることができた。 ・対話的な授業、構成的グループエンカウンターなどの定期的な実施により、人間関係のベースを構築することができた。 【課題】 ・縦割り班活動に位置づくのが困難な児童に対する支援の方法	10		・お互いを知るために、学年や縦割り班メンバーで交流する機会を作った。 ・アセスのポイントが上昇した事は成果だと思える。もし機会があれば他の評価結果も共有したい。 ・方策としてウィズコロナを見据えた活動機会の創出とあるが、具体的に何をしたのか。 ・学力向上のための取り組みが生徒指導の充実と連動して、児童の育成に繋がって学校運営全体に統一感がある。 ・低・中・高と達成度に違いがあるのが学年の特徴があるのでしようか。それもきちんと自己評価できているということでしょうか。 ・意に応じた支援の充実を続け、安心できる人間関係を構築できる取組を進めてほしい。 ・児童が考え行動する機会を設けて、体験を通じた学びを大切にしたい。	・今後もアンケートに対して否定的な回答をした児童や、アセスで要支援の児童を注視し、一人ひとりに必要な手立てを続ける。 ・各学年において構成的エンカウンターなどを取り入れながら児童が考え、行動する場面を意図的に設定し、体験を通して学ぶことが出来るようにしていく。 (個別的なSSST、居場所作り、共感的人間関係の構築)	
			(2) 自律できる児童の育成 ①あいさつ指導の充実 ・キーワードや目標を決めて、学校で統一した指導 ②掃除や係活動の充実 ・目標を持たせPDCAサイクルを意識させる	・毎月の児童会目標の達成率	85%	低学年: 88.5% 中学年: 84.9% 高学年: 88.7% 全体: 87.3% (※旧質問項目: 何事にも目標をもって取り組んでいる。)	低学年: 80.1% 中学年: 89.0% 高学年: 84.8% 全体: 84.6%	99.5%	B	【結果】 ・生活目標の守り方を各学年が設定し、自主的に目標達成に向けて行動することができた。 ・生活目標に関連させた児童会の様々な企画を実施することができた。 【課題】 ・企画時だけでなく、日常的な取組や意識の向上が必要である。	10		・とても気持ちよく挨拶してくれるのでいつも嬉しく思っている。 ・後期は児童会目標の達成率を評価された事はとても良い改善だと思える。しっかり児童にもチェックとアクションを行ってほしい。 ・方策①の「あいさつ」についてはどうだったのか分からない。「あいさつ」「掃除」「係活動」それぞれで目標設定したのか。 ・所属感を味わえる工夫は動的な要素だけでなく、静かで深い部分をもつ児童にも活躍の場が与えられる工夫をおおいしたいです。 ・各学年の生活目標について校内で公開し、他学年等での取組を通して、もの見方・考え方について視野を広げようというにはいかがでしょうか。 ・数々の児童が自分なりの目標をもち、達成できるようにするための具体的な方法があるとよい。	・各学年で設定する生活目標の守り方を発表する場を設けて意識を継続させる。 ・生活目標の種類が「あいさつ」「外遊び」だけに固定化しないようにする。 ・代表委員会以外の場でも当月の生活目標を喚起させる取組を実施する。
			(3) 体を動かす機会の創出 ①児童会・体育委員会での運動遊び(年間3回) ②運動広場などで体力の向上を意識するイベント ③クラス遊び・学年遊び・外遊び週間	元気で、学級や学校の仕事などが無い時、週2日以上外遊びを行った児童の割合	80%	低学年: 91.7% 中学年: 86.5% 高学年: 85.7% 全体: 88.0%	低学年: 76.8% 中学年: 81.3% 高学年: 68.7% 全体: 73.2%	91.5%	B	【結果】 ・外遊びのきっかけを作ることができた。 ・後期の評価では、「外遊び」のみが評価の対象になっており①②については実施したのが分からない。 【課題】 ・外遊びをするかどうかの良さがあのかの伝え方。 ・外遊びが苦手、嫌いだという児童を外遊びに向かわせる取組。 ・育みたい運動能力を意識した取組の提案。 ・運動能力下位群の体力テスト結果の底上げ。 ・季節関係なく外遊びを継続的に行う児童の育成。	8	1	・先生が一掃に外に出てくれることにより、子どものモチベーションも上がり、より外遊びが楽しくなるのではないかと。 ・後期の評価では、「外遊び」のみが評価の対象になっており①②については実施したのが分からない。 ・今、ここにある目標達成のための方策で協働の向上は望めると思うが、体力測定後の整合性を分析されてもよいと思う。 ・地域の高齢者に昔の遊びを教わることも地域交流と合わせて良いかもしれない。 ・まずは「楽しく」体を動かすというキーワードはとても良いと思う。	・体を動かすためのイベントなどの企画・実施。 ・東っ子運動広場のアップデート。 ・各学期に1回程度の外遊び週間の設定。 ・体育科授業の充実。 ・外部講師の招聘。 ・児童会、体育委員会による異学年遊びの計画・実施。 ・体力づくりの情報を発信。 ・体力テストの結果を活用。
信頼される学校づくり	地域と共に育つ児童の育成	学校と地域の協働の向上	(1) 地域の特色を生かした授業や地域とつながる授業の実施 ①各学年が設定した学びの場(生活科・総合的な学習の時間等)	○児童アンケート「自分が住んでいる地域が好き」と答える児童の割合	80%	93.1%	93.6%	117%	A	【結果】 ・年間を通じて90%以上の児童が「自分が住んでいる地域が好き」と答えることができた。 ・年間を通して、校区内の探検に行ったり、地域のゲストティーチャーをお招きするなどしたりして、地域と関わる機会を積極的に創出することができた。 ・「ぶらまる」「向東まるごとフェスタ」等にも児童が主体的に参加することができた。 【課題】 ・地域との繋がりが弱く、児童が主体的に「何ができるか。」を考えていける取組が必要である。 ・住んでいる地域が好きならもっと地域の人を知ってほしい。	9	1	・子どもを中心に考え、動いていく中でそれが自然と地域へと繋がっていくことになれば一番いいと思う。150周年も良い機会になる。 ・「地域貢献」は学びの手段であってそれが目的にはならないと思う。 ・保護者が積極的に学校や地域に働きかけているか問うことが必要ではないか。 ・以前の東っ子まつりや今のまるごとフェスタもPTA(保護者)が出店などとして協力し、子どもはボランティアとして参加していたが、高学年なら自分達でチームを作り、何かできることを考え、出席することも良いと思う。逆に保護者はサポートへ回る方もありだと思える。 ・自分が住んでいる地域が好きということが子ども達で育っているということは、とても素晴らしい。 ・地域の教育力が生かされていると思います。今後は、学校主導で地域の持つ良さを取り入れてください。 ・住んでいる地域が好きならもっと地域の人を知ってほしい。	・来年度は、150周年を迎える本校で、6年生を中心として、向東地域のことをより詳しく知る学習を計画している。児童が、普段生活している地域のことをより深く知ることで、「地域愛」を持った児童の育成を図っていく。
			(2) 学校の取組に係る保護者・地域への発信 ①学校便り・HP ②CS便り ③学級懇談会・入学説明会等	○保護者アンケート「学校は、学校行事や授業で地域の人材を積極的に活用している」の項目で肯定的な評価の割合	80%	91.6%	83.7%	105%	A	【結果】 ・年間を通じて80%以上の方が、学校の取組に肯定的に回答していた。 ・音楽発表会のYoutubeによる発信を実施した。 ・学校便りは、2月現在で12回、CSだよりは、年3回、地域教育支援推進委員会だよりは、年1回発行した。 【課題】 ・学級懇談会を新型コロナウイルス感染症の影響から実施できない時もあった。	9	1	・保護者の方が、積極的に学級懇談会に参加し、学校での様子を直接担任の先生から聞いて欲しい。 ・発信については、HPをはじめ、効果的なメディアを複数活用しながら取り組まれた方がよいと思う。 ・学級懇談会が実施できなかった時もあったと思うが、アンケートでは肯定的であり、理解はあると思いたい。 ・時代に合わせた発信の仕方の進化・変化は今後も必要だと思えます。 ・現在考えられる情報発信はできていると思えます。継続して発信をお願いします。	・本年度から、連絡アプリ「コドモン」が導入され、保護者への連絡手段が増えた。積極的に活用して、情報発信に努めていく。 ・個人情報や著作権については、十分に配慮しながら取組を進めていく。 ・学級懇談会は、共働き世帯など保護者の都合も踏まえながら、柔軟に考えつつ、年間3回をベースに考えていく。

【自己評価 評価】
A: 100≦(目標達成)
C: 60≦(もう少し) < 80
B: 80≦(ほぼ達成) < 100
D: (できていない) < 60

【外部評価】 イ: 自己評価は適正である。ロ: 自己評価は適正でない。ハ: わからない。